



→季節の移り変わりは空気の澄み具合にも見られる。しだいにスカイツリーがはっきりと見えるようになってきた。ただいま高さ400mを超えようとしている。残り234mになった。



↑渡し場にも植えてあるが、矢切には白い彼岸花(曼珠沙華)の咲くところがある。しかし、年々数が減っている。

赤がいいか、白がいいか。

舟を降りたばかりのお客さんのあいだに彼岸花論争が始まった。

「やっぱり赤よ」

稲が黄金色に色づいたころ、辺りを彩る彼岸花は、やっぱり赤がいいという意見が多かった。

「白もいいわよ、心が洗われるし」

「そうね、白い彼岸花もたしかにいいわ。でもねえ、曼珠沙華って呼ぶんなら、やっぱり赤よね」

雨上がり、矢切の渡し周辺のいっせいに彼岸花が咲いた。

不思議な植物で、まるで手折られることを警戒するかのようになり、いきなり茎を伸ばし、いきなり花を咲かせる。

葉は花が咲き終わって枯れてから遅れて伸びてくる。そのころには周辺の草花が枯れているから、落ち着いて光合成ができるというわけだ。

いきなり花が開くまで、あるかどうかさえわからないものだから、みんなに楽しんでもらおうと気をきかせて、失敗した人がいる。

江戸川堤防の外側、道路を挟んで建つ民家の奥さんが語る。

## 今週のクマ

→食欲の秋。人の食欲が  
ますと、そのおこぼれがク  
マにくる。よせばいいのに、も  
らったものは、なんでも食  
う。好き嫌いなどないのだ  
ろうか。肥満が気になる季  
節がやってきた。



↑一カ所だけ刈り残した田んぼがあ  
る。ハトたちが群がってついばんで  
いた。その量はスズメなどの比ではない。

「うちの廻りには彼岸花がいっぱい咲く  
の。それも赤ばかりじゃなく白もね」

一昨年のことだった。前述のように草  
むらのなかから茎を伸ばしていきなり花  
が咲くものだから、見やすいようにと立  
て札をたてた。

「この辺りには赤や白の彼岸花が咲きま  
す。踏まないようにしましょう」

すると、ある日、作業着姿の男がふた  
り、庭先にやって来た。

「奥さん、おたくですか、この立て札を  
たてたのは。勝手なことをしないでくだ  
さい。すぐに撤去しなさい」

聞くと河川局の人だという。

家の脇にU文溝がある。ここから江戸  
川堤防側は国の土地だ。あんたの土地で  
はない、というわけだ。

べつに奥さんは土地を我が物にしよう  
としたわけではない。彼岸花を保護しよ  
うとしただけだ。

「だいたいねえ、みんなそうして人の土  
地を自分の物にしてしまっんですよ」

容赦ない。そのうち屋根を見上げ、

「あッ！ 雨水がこっちに吹き流れてく  
る。ダメダメ。雨樋を短くしなさい。雨  
水をこちらに流しちやいけないよ」

いちいちごもつとも。でもねえ……。